

# 東京都市大学付属中学校

校長：篠塚 弘康  
〒157-8560 東京都世田谷区成城1-13-1 TEL(03)3415-0104  
アクセス：小田急線 成城学園前駅南口下車徒歩10分／東急田園都市線・大井町線二子玉川駅下車バス20分



**Information**

- ◆学校説明会(要予約) 9月10日(土) 14:30~16:30
- ◆「授業見学ができる」水曜ミニ説明会(要予約) 10月26日(水)・11月30日(水) 各日10:00~11:30
- ◆「受験生にエールを送る」入試説明会(要予約) 11月20日(日) 10:00~12:30
- ◆「授業見学ができる」土曜ミニ説明会(要予約) 9月24日(土)・1月14日(土) 各日10:00~11:30
- ◆「授業見学ができる」水曜ミニ説明会(要予約) 10月26日(水)・11月30日(水) 各日10:00~11:30
- ◆「受験生にエールを送る」入試説明会(要予約) 11月20日(日) 10:00~12:30
- ◆「授業見学ができる」土曜ミニ説明会(要予約) 9月24日(土)・1月14日(土) 各日10:00~11:30

《公開行事》

- ◆柏苑祭(文化祭) ※個別相談あり 10月1日(土)・2日(日) 各日10:00~16:00
- ※学校見学随時可(要予約)

## BE THE NEXT ONE

中高一貫の男子校、「明るく元気な進学校」として、難関大学合格を目標としたプログラムで進学実績を着実に伸ばしています。「科学する心と表現する力」を育む科学実験、社会人OBが社会の仕組みからマナーまでを直接伝えるキャリア・スタディなどを柱として、健全な精神と豊かな教養を培い世界で活躍できる人材の育成をめざします。

また、グローバル化に対応するため、少人数クラスで行われる外国人講師を加えた授業やネイティブ・スピーカーとのオンラインによるマンツーマン英会話などをとり入れています。



## 充実の完全6か年一貫教育

6年間を通して、「体験学習」、「自ら考え、探究し、表現する力」の養成に力点を置いています。前期(中1・2)では、英数を中心として前倒しで学習する一方で、毎週の小テスト、補習等により学力状況のチェックとそのフォローに努めています。また、科学実験、中期(中3・高1)のキャリア・スタディ、中期修了論文などを通じて、単に知識の伝達ではなく、生徒自らが疑問を発見し、その解決に向けて考える能動的な授業(アクティブラーニング)を展開し、新大学入試制度にも対応できる力を養成しています。後期(高2・3)では、自己の進路目標を達成できるような進学指導体制、社会に貢献できる自己実現をめざす進路指導を目標として、最難関国公立や難関私立の大学をめざす科目選択で現役合格をめざします。

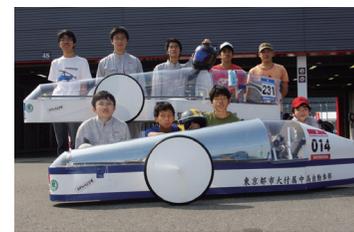
## 全力で究める・学ぶ・競い合う

Ⅱ類(最難関国公立大)とⅠ類(難関国公立私大)のコース制を敷き、練習問題や宿題の量などは習熟度に応じて調整することで効率的な学習を展開しています。各学年の進級時にⅠ類の成績上位者はⅡ類に転類できます。前期(中1・2)2年間は基本的な生活と学習習慣を身につけ、確立させることに重点を置いています。高1まではバランスのとれた科目配置で総合的な学力を養成。また、学部学科ガイダンスなどにより、卒業後の進路に視野を広げます。後期の高2から文理のコース別(文系も数学必修とし全員が国公立大受験に対応可能)に、高3では志望校に応じた6コースに細分化され、

また、社会2科目選択も可能とし、難関大学受験に対応した学習を展開しています。

## スクールライフ

中1次の主な行事は、林間学校(3泊4日・長野県蓼科)、弁論大会など。また中2次に希望制で、スキー学校なども行っています。学習以外の活動も活発です。生徒会の運営をはじめとして、文化系、体育系のクラブ活動や体育祭・文化祭(10月)などの行事運営は、各学年の生徒による積極的な自主活動で行われています。全面人工芝のグラウンドはケガも少なく、夜間照明も備えているので1年中思い切り体を動かせます。ガラスを多用した明るく見通しのよい校舎には実験室に加え、最新のメディアやマテリアルを備えた図書館、PC教室などがあり、本校の教育を支えています。2023年度から全生徒がタブレット等の情報端末を使って授業を受けます。



## 募集要項(2023年度)

	第1回	第2回	グローバル入試	第3回	第4回	帰国生
募集人員	Ⅱ類 約10名	約40名	若干名	約20名	約10名	若干名
	Ⅰ類 約40名	約60名	若干名	約40名	約20名	若干名
出願期間	インターネット出願					
	1/10(火)~2/1(水) 午前7時まで	1/10(火)~2/1(水) 午前7時まで	1/10(火)~2/3(金) 午前7時まで	1/10(火)~2/3(金) 午前7時まで	1/10(火)~2/5(日) 午前7時まで	12/1(木)~1/6(金) 午前7時まで
試験日	2/1(水)午前	2/1(水)午後	2/3(金)午前	2/3(金)午前	2/5(日)午前	1/6(金)
合格発表	2/1(水)	2/1(水)	2/3(金)	2/3(金)	2/5(日)	1/6(金)
入学手続期間	2/2(木)~7(火)	2/2(木)~7(火)	2/4(土)~7(火)	2/4(土)~7(火)	2/6(月)~7(火)	1/7(土)~2/7(火)
試験科目	4科		2科		英・算・国 英・算・作文(日本語) 2科/4科	

※2科(国・算) 4科(国・算・社・理) 詳細は9月発行予定の募集要項をご確認ください。



特別企画

安田教育研究所 安田 理先生の

# 学校探訪



校長 篠塚 弘康



2023年度中学入試に向けて、男子校でもっとも注目を集めているのが東京都市大学付属である。入試日程が大きく変わること、東大合格者が2桁になったこと、それに加えて大物校長が着任したこと。12年連続都内男子校応募者数No1を続けていて現状でも全く問題がないのにさらに向上しよう手打っている。改めてこの3つを中心に東京都市大学付属の魅力を探ってみよう。

## 2月1日の「午前入試」に進出

長いこと中学受験に関わる仕事をしているが、こういう見出しを付けた記憶がない。「2月1日に進出」というのは本郷など何度もあるが、「午前」が入ることはなかった。というのは、東京都市大学付属(以降、親しまれている「トシコ」)という表記にするのは武蔵工業大学付属時代から(2009年に大学名自体が変わった)第1回入試が2月1日午後だったからである。

男子校の午後入試という、巣鴨、世田谷学園、獨協が最近始めたので新しいイメージがあるが、トシコは午後入試を多くの受験生が受けるようになるは前から行ってきている。言わば午後入試の“老舗”である。

5年ほど前に中1生8人ほどに話を聴く機会があったが、その時は全員が第一志望は御三家をはじめ東京・神奈川の難関校だった。その後、環境・施設の良さ、帰国生の多さ、のびのびした明るい校風に加え、近年の大学合格実績の向上から第一志望者が増加、2月1日午前入試を求める声が大きくなったのである。

2月1日に午前・午後と2回も行うと当然教員の負担が大きくなる。実施している学校も多数あるが、そうした学校の多くは受験者が少ない。トシコのように1000名もの受験者がいると採点だけでも大変である。そのためグローバル入試(算数・英語・作文<日本語>で実施)を含め2月1日午後以外は他の日程もすべて変更することになった。その結果影響を受ける男子校、共学校が続出し、2023年度の男子の受験状況は大きく変わりそうである。

## 「コース制」以外の要因

今春、東大に2桁12名の合格者を出したことが話題になっているが、そのほか京大4名、東工大7名、一橋大7名、早稲田大97名、慶應義塾大55名、東京理科大83名…と、目覚ましい。

向上の要因としては2013年度から導入したコース制(Ⅱ類・Ⅰ類)が挙げられることが多い。その1期生が卒業した2020年春から一段と向上したから、それが主要因であることは確かだろう。が、コース制を敷いているところはほかにもいろいろある。他の要因を考えてみよう。

●帰国生が大勢いることで、英語が身近なものになり、国内生の英語力が伸びている。

●6つの実験室を使った20人1クラスの少人数の理科実験を3年間で60テーマ行う。実験が終わるごとにレポートを書いて出すので、論理的に考える力が育っている。

●高1に中期修了論文があり、4,000字以上の論文を書く。生徒が自分の興味あるテーマを設定し、仮説を立てて調査を行い、結論を導き出す。これでも論理力・表現力が培われる。

●中3から「キャリア・スタディ」があり、世界、社会に目を向けながら、世の中にはどんな仕事があり、その仕事に就くにはどんな大学のどんな学部に進めばいいかを考えていく。このプログラムでも発表や新聞作成を行う。

こうした教室での教科の勉強以外の部分、体験型の学習が充実していて、生徒に主体的に学ぶ姿勢が生まれている。それが近年の大学入試の方向と合致しているということが言えるのではないだろうか。

●海外研修という、休暇中の大学の施設を使った語学研修が多いが、トシコのそれは一味違う。

●アップル、グーグルなどIT企業が集中するシリコンバレーを訪れることで、最先端の世界に触れ、カルチャーショックを受ける機会がある。

●カリフォルニア工科大学またはUCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)を見学して海外大学の空気に触れる。

●マレーシアの村に滞在し、多様な言語が混在していることを実感するとともに、伝統文化や熱帯の自然を体験する。

●ニュージーランド語学研修も現地校の授業に参加するという本格的なもの。

## 考えられた海外研修

と、多くの学校の海外研修とは異なり、生徒に刺激を与え、勉学へのモチベーションが上がるように工夫されている。

## 部活にも100%全力投球

学校を訪れると、毎回何から全国大会、関東大会、都大会に出場した部、選手の垂れ幕がかかっている。他校にはあまりない部活が存在し、それだから大会に出場しやすいという面もある。

運動部では、少林寺拳法部、アメリカンフットボール部、アイスホッケー部、

自転車部などがユニーク。少林寺拳法部は関東大会・全国大会に出場しており、アメリカンフットボール部も部員30名ながら全国大会に出場したこともある。アイスホッケー部は近くにリンクがないので遠く東伏見、船橋まで出かける(普段はグラウンドの隅に練習場所がある)。自転車部は富士山を走行する、などどれも本格的。

文化部では自動車部、生物研究部の活動が目立つ。自動車部はエコカー製作(1リッターのガソリンで何km走行できるかを競う)に燃える。生物研究部は3泊4日の野外キャンプまで行っている。

多種多様な部活があり、進学校でありながら90%以上が部活に加入していることが、受験生・保護者から大きな支持を受けているもう一つの背景ではないだろうか。

●受験生の保護者の期待を集める新校長

受験生の保護者の間で話題となっているのが、神奈川県立横浜翠嵐高校の校長であった篠塚弘康先生の校長就任である。横浜翠嵐と言えば、都立日比谷と並んで公立高校で東大合格者を増やしている高校の代表。

その素晴らしい実績を挙げた校長が着任したのだから、トシコの大学合格実績をさらに伸ばしてくれると期待が高まるのは当然である。

早速お話を伺うと、神奈川県教育委員会の人事課の経験が長く、現場では定時制、定員割れ校を含めいろいろ経験されている。

ここで公立高校の話をしてはもたないが、教員人事ではトップ校にだれを配置するかがポイントであること、横浜翠嵐に来る教員は皆使命感を持っていることなど、私学にも当てはまる話を伺えた。

トシコについての印象も伺うと、

●これまで高校生ばかりを相手にしてきたので、中学生がとて新鮮。素直な子が多いと感じる。

●校舎、施設がきれいで充実している。15年前の建築とは思えないほどメンテナンスもよい。

●教員が熱心に生徒に向き合っていて、しかも明るい。

ことなどを挙げてくれた。

経験豊富な校長だけに大学進学に関わらず様々な面でトシコに新しい風をもたらしてくれそうだ。

このように見てくると、トシコの可能性は一段と広がりそうである。



RESULT



RESEARCH